

平成28年度試験研究課題一覧

資料3

当初 番号	9補 番号	機関	課題 区分	公募採択機関・委 託元	実施 年度	概要		事業費 (千円)	先端的、戦 略的な研究 開発	産業の活力 と力強さを生 み出す研究 開発	安全・安心な 生活、環境 保全型社会 を生み出す 研究開発
						課題名	課題概要				
1		環科研セ	一般		28	30	野焼き等によるPM2.5高濃度発生状況の解明に関する研究	本県における春や秋のPM2.5高濃度汚染について、PM2.5成分データや気象状況などから高濃度要因等を解明する。また、PM2.5発生源寄与割合の推計を行い、野焼きによる環境影響を明らかにする。	1,353		○
2		衛生研	一般		28	30	ダニ媒介感染症に関する総合的研究	国内で新しいダニ媒介感染症が相次いで発見されている現状を踏まえ、山形県におけるダニ媒介感染症発生の可能性を追究し、得られた知見を県民に還元するとともに、論文等で広く国内外に発信する。	694		○
3		衛生研	一般		28	30	感染症媒介蚊の生息状況調査	今後の蚊媒介感染症予防対策に役立てるため、県内10地点に生息する蚊を春から秋にかけて捕集し、蚊の種構成や生息密度、季節的町長などの生態を調査する。	575		○
4		衛生研	一般		28	29	自然毒の新規分析法開発及びそれを用いた自然毒食中毒の原因究明に関する研究	我々はこれまで、県内で中毒の多い植物性自然毒のうち75%を分析可能としてきたが、いまだ分析できない毒キノコや動物性自然毒、身近な有毒植物などがある。これらを分析可能とし、中毒に備えることで食の安心安全に資する。	516		○
5		衛生研	一般		28	30	現場における食用キノコとツキヨタケの判別法の開発	これまでは検査室内で分析することによりツキヨタケを判別したが、新たに採取現場で判別する方法を開発する。さらにこの方法や他の分析法を用いてキノコに関する迷信や言い伝えの科学的検証を行う。	589		○
6		衛生研	一般		27	29	コロナウイルスの疫学研究—迅速定量遺伝子検出系およびウイルス分離方法の確立—	全国的に検出報告が少ないコロナウイルスについて、これまでの研究で遺伝子検出により山形県における流行を明らかにした。本研究では、さらに長期的かつ詳細な疫学解析を視野に、迅速に同定・定量を可能とする新たな遺伝子検出系の確立およびウイルス分離を試みる。	693		○
7		衛生研	一般		26	28	ヒスタミンによる食中毒防止のための研究	これまでに食品に含まれるヒスタミン等を迅速に分析する方法を開発した。食品中でのヒスタミン生成が阻害できれば、ヒスタミンによる食中毒(アレルギー様食中毒)を防止できる。このような機能を有する山形県産食材を探索し、その成分を明らかにすることで、食材に新たな価値を	619		○
8	1	衛生研	業務	株式会社 ヤクルト	28	-	東北乳酸菌研究会との共同事業「サフォードウイルスの疫学研究」	サフォードウイルスは、2007年の論文で初めて報告されたウイルスであり、新しく発見されたウイルスであることから、ヒトの病原体としての情報は極めて限られている。衛生研究所は、特に世界でも数少ないサフォードウイルス2型のウイルス分離が可能な機関であり、さらなる研究を行	400		○
9		衛生研	業務		24		マイコプラズマ培養受託	マイコプラズマ肺炎診断キットの性能試験に係る受託試験	423		○
10		衛生研	業務				職員研修(3件)	・国立保健医療科学院 ウイルス研修 1名(232千円) ・液体クロマトグラフ質量分析計(LC-MS/MS)初級・中級定量トレーニング、機器のメンテナンスコース 1名(188千円) ・㈱ファスマック PCR法およびウエスタンブロット法の検査トレーニングコース 1名(124千円)	544		○
11		衛生研	業務				衛生研究所設備整備費	地域保健対策の効果的な推進に必要な調査研究、検査業務に必要な機器の整備	9,775		○
12		工技セ	一般		27	29	表面機能を創成する微細切削・転写加工技術の開発	微細形状や微細構造表面の創成等、これまで不可能だった付加価値の高い県内企業からの技術相談への支援を可能にするため、微細凹凸形状の切削加工技術と高い転写性を実現する射出成形技術に関する研究を実施する。	1,011		○
13		工技セ	一般		27	28	切削技術支援強化に向けた「見える化」技術の調査と実証	切削分野での技術支援強化策を検討するために、切削現象「見える化」に関し、企業ニーズや最新技術、切削現象シミュレータ等の有効性等を調査・検証する。	124		○
14		工技セ	公募	経済産業省	26	28	鋳鉄の耐摩耗性の向上及び安定化技術の開発(サポイン、経済産業省)	耐摩耗性に優れた大型の鋳鉄製品を提供するため、鋳鉄の硬さを向上及び安定化させる技術を開発する。	3,021		○
15		工技セ	一般		27	29	官能センシング評価を活用する県産酒のフレーバー成分分析	評価の高まっている県産酒の包括的な香味成分の分析評価を実施し、独自のフレーバーチャートを作成することで県内企業に有益な技術情報の提供を行う。	2,731		○
16		工技セ	一般		26	28	県産資源を活用したタンパク系発酵食品の開発	県産大豆など蛋白質に富む原料を麹で発酵処理することにより、風味・栄養価とも優れた新しい発酵食品を開発する。また開発品の栄養・健康機能性をマッピング(可視化)してプロモーションする	1,005		○
17		工技セ	一般		27	29	県産ワインの風味向上技術に関する研究	ぶどうの栽培方法による果汁や、生成ワインの成分特性を解析することにより、山形のぶどうに特徴的な酸味や味わい・香り等の風味を高めたワインの製造に関する研究を行う。	729		○
18		工技セ 庄内	一般		27	29	複合酵素・発酵技術とメタボロミクスを活用した高付加価値果実加工品開発	山形産メロンを中心に新規な加工素材および酵素処理や発酵技術により高付加価値な果実加工品を開発する。メタボロミクスを活用し新規な果実風味センシング技術を確立する。	3,850	○	○
19		工技セ 庄内	一般		27	29	発酵と官能センシング評価を活用した新規低塩漬物開発	乳酸菌の活用と製造工程の改良などにより、低塩・無塩漬物の製造技術を開発する。開発された漬物については、官能センシング評価により、製造条件の最適化、高品質化を図り、低塩・無塩かつ風味・食感の優れた漬物開発を行う。	1,104		○
20		工技セ	一般		28	30	県産食用花の外観を生かした新規加工食品の開発	食用花へ食品素材コーティング、浸透加工させる新規食用花卉加工技術を確立し、食品加工においても花卉強度と外観(形状・色調)を保持し、通年利用可能な食品用新規花卉加工品を開発する。	704		○
21		工技セ	一般		26	28	山形県産スギ材を活用した高性能WPCコンパウンドの開発	近年、木材・プラスチック成形複合材(WPC)の原料に、建築廃木材にかわり、間伐材や製材端材が利用されつつある。そこで、県内製材端材から高性能WPCを製造する技術を開発し、木質資源の有効活用を資する。	384		○
22		工技セ	一般		26	28	太陽電池シリコンインゴット切断用高性能電着ワイヤーの開発	太陽電池用シリコンウェハの高効率切断、薄型化のために、カーボンナノチューブ複合めっきを用いた長寿命で加工能率の高い高性能ダイヤモンド電着ワイヤーおよびその製造技術の開発を行う。	832		○
23		工技セ	一般		27	28	エポキシ樹脂系塗料の低温硬化性向上	エポキシ樹脂系塗料に硬化促進剤を添加することにより、低温硬化性に優れ、かつ塗膜性能を良好にする技術開発を行う。	1,420		○
24		工技セ	一般		26	28	高速並列処理モジュールの開発によるOCTシステムの構築	OCT技術の普及に必要な専用の高速並列処理モジュールを開発し、各種検査装置に適用される共通のプラットフォームを提供する。同時に装置の小型化、低コスト化を実現し、製造ラインへの導入を進める。	824		○
25		工技セ	一般		27	29	ヘルスケアセンサ向け非真空ビルドアップMEMSプロセスの開発	4種類のセンサを集積したウェアラブルヘルスケアセンサの試作と耐用試験により、インクジェット塗布装置の課題の塗布条件選定法とデバイス耐久性を解決し、非真空ビルドアップ型の電子デバイス作製技術を確立する。	1,112		○
26		工技セ	一般		27	28	組織改質によるアルミニウム合金鋳物の機械的特性向上	Ti-B系添加剤によって金属結晶の粒径を微細化したAl-Mg系合金鋳物(AC7A)の機械的特性に及ぼす溶存ガス由来のピンホールや肉厚(冷却速度)の影響を評価し、最適な鋳造条件を確立する。	490		○
27		工技セ	一般		27	29	麻および絹の捲縮加工による春夏素材の開発	マーセル化加工、塩縮加工により、麻および絹の改質を行い、春夏用のニット原糸の開発を行う	619		○
28		工技セ	一般		27	29	県産紅花加工技術の高度化と染色工業への応用	発酵条件の適正化、染色条件の改良により、紅花色素の高付加価値化、紅花染めの量産化を図る。	222		○
29		工技セ置 賜	一般		27	28	トリアセテートの改質による省エネ型染色加工技術の開発	米織でトレンドとなっているトリアセテート交織織物の染色加工は、素材により染色方法が異なるため、2回の染色と高圧高温染色が必要となる。染色時間削減と省エネ化を目的とし、トリアセテートを改質し1回の染色と常圧低温染色技術を確立する。	186		○
30		工技セ	一般		28	29	超音波楕円振動を活用したダイヤモンド切削工具の機上成形	超音波楕円振動切削による精密・大面積加工において加工途中の工具摩耗が課題である。このため、摩耗したダイヤモンド切削工具を加工機から取り外すことなく機上成形したうえ刃先の精密位置決めを行う。	761		○
31		工技セ	一般		28	29	機械的信頼性向上に向けた熱可塑性樹脂の成型加工技術の開発	熱可塑性樹脂成形品の機械的強度に及ぼす成形条件の影響を定量的に評価し、最適な成形条件を見いだす。	454		○
32		工技セ	一般		28	29	めっき皮膜/母材界面組成が密着性に及ぼす影響	種々のめっき前処理条件で作製した試料について、新たに導入するグロー放電発光分光分析装置(GD-OES)を用いて、めっき皮膜/母材界面組成を詳細に解析し、密着性に及ぼす影響を明らかにする。	318		○
33		工技セ	一般		28	30	県オリジナル酵母の開発と県産米とのマッチング研究	「雪女神」を使用した製品の開発に伴い、「雪女神」に適した酵母の開発が必要である。そこで、新規エステル香(ラフランスやマスカット様香)に注目し、新たな吟醸香を生成する山形酵母の取得を行う。	1,109		○

平成28年度試験研究課題一覧

資料3

当初番号	9補番号	機関	課題区分	公募採択機関・委託元	実施年度	概要		事業費(千円)	先端的、戦略的な研究開発	産業の活力と力強さを生み出す研究開発	安全・安心な生活、環境保全型社会を生み出す研究開発	
						課題名	課題概要					
34		工技セ	公募	経済産業省	27	29	難削材の複雑形状加工を可能とするカーボンナノチューブ複合長寿命レジソンド砥石の開発	ハイレシプロ加工において砥粒脱落が抑制され、工具研削等における耐熱性・放熱性の改善により、超硬合金や耐熱合金、高速度鋼などの高能率・高精度加工が可能となるカーボンナノチューブ複合レジソンド砥石を開発する。	4,621			
35		工技セ	公募	JST	27	29	金属・樹脂複合体の3Dプリンティング技術の開発	ウェアラブルデバイス等の局所的な機能性の付加、3次元配線への応用を目的とし、レーザーブレーティング、大気圧マイクロプラズマ等により生成した金属を3次的に樹脂の自由曲面に配置する技術を開発する。	1,306			
37		工技セ	業務				企画情報事業	中小企業等への技術支援、研究開発等の企画立案、他機関との連絡調整、研究成果情報の情報発信	3,056			
38		工技セ	業務				高度技術者育成支援事業	工業に関する基幹技術の習得と新技術開発手法の習得などの職員研修	836			
39		工技セ	業務				施設・試験研究機器保守検定事業	試験機器の機能を維持するため定期的な保守点検、機器の校正を実施	22,115			
40		工技セ	業務				ものづくり製品化支援事業	「ものづくり創造ラボ」を活用し、アイデア創出から企画・デザイン、加工、評価にわたるものづくりの総合支援を行う。	15,104			
41		工技セ	業務				ものづくり現場サポート事業	企業が抱えている問題に対し、企業を訪問し直接的な技術指導を行う。職員のみでは対応できない問題に対して県内外の大学、研究機関等とチームを組み企業訪問し適切なアドバイスをを行う。	1,351			
42		工技セ	業務				指導試験事業	県内企業からの技術的相談へ対応するための機器整備や技術情報の収集を行うとともに、技術的課題への指導を実施	43,218			
43		工技セ	業務				デザイン振興事業	県内企業からの相談に対応し、デザイン開発の指導を実施	600			
44		工技セ	業務				委託分析試験事業	県内中小企業の技術新興のため、企業が必要とする分析や試験を受託	14,052			
45		工技セ	業務				次世代新素材評価・分析支援事業	合成クモ系繊維の評価、分析技術の確立に向けた支援事業	1,000			
2		工技セ	公募	農林水産省	28	32	果肉硬度に着目した果実加工品の開発(農林水産省 革新的技術開発・緊急展開事業内先導プロジェクト)	保存中に果肉が軟化する果実(西洋ナシ等)を対象にカルシウム剤と加熱処理を組み合わせ、任意の硬さに調整された1次加工品を開発する。果肉硬度評価により加工適期、加工効果の定量化(体系化)を図る。	2,862			
4		工技セ	公募	経済産業省	28	30	光計測による錠剤用徐放膜管理システム開発(経済産業省 戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン))	錠剤の薬成分の溶出をコントロールする徐放膜は含浸膜であり、現在、数時間かかる溶出試験でしか評価できないが、光計測(OCT計測)で溶出時間の推定を実現する。	2,015	○	○	
5		工技セ	公募	NEDO	28	30	インクジェット塗布法によるフレキシブルセンサの開発(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 戦略的基盤技術高度化支援事業)	(株)太陽機械製作所におけるプリンタブルエレクトロニクス用フレキシ印刷機の開発支援を行うとともに、インクジェット塗布によるセンサ作製及び評価を行う。	7,440	採択前		
46		農総研セ	業務		21		農作物作柄診断解析調査	農作物の作柄安定を図るため、継続的に水稲、大豆、果樹など主要な農作物における生育データを調査	1,384			
47		園試	一般		25	29	第5期山形県りんごオリジナル優良品種の開発	地球温暖化による高温の影響により、果実品質の低下が顕著になっており、着色・栽培容易な高温適応性品種が求められていることから、交雑育種法によりオリジナル品種開発をすすめる	886			
48		園試	業務		27	31	温暖化に対応した果樹・野菜・牧草・林木の適応性調査	地球温暖化の進展により、これまで栽培が不適と考えられていた作物や品種等が栽培できる可能性がある。そこで、果樹・林木・野菜・牧草について、栽培可能な作物等をスクリーニングするための栽培調査を行う	2,159			○
49		森林研セ	一般		27	31	成長の早いヤナギを利用した木質バイオマス圃場生産技術の開発	効率的に木質バイオマスを生産するため、ヤナギ栽培による生産を試みる。圃場、休耕田、荒地など、様々な立地に植栽してヤナギのバイオマス量を評価する。また、多雪や夏季の高温などの影響も明らかにする。	185			○
50		園試	一般		28	30	ももの立ち枯れ対策技術の開発	もも産地における立ち枯れ対策として、充実した樹体を示す生育指標の作成と、充実した樹体を育成するための栽培管理技術を確立し、もも園地の拡大、再生を図る。	349			○
51		水田農試	一般		28	30	温暖化に対応した水稲の安定生産技術の開発	高温条件や作期拡大に適した品種の特性と土壌管理条件を明らかにし、温暖化条件に対応した水稲の安定生産技術を開発する。	532	○		
52		畜試	一般		28	30	夏季間の繁殖能力改善のための抗酸化作用等を活用した飼料給与技術の確立	飼料中の栄養素配分は、生殖機能が最下位になり、夏季間の受胎率減少が問題視されている。そこで、これまで開発した発酵TMRに抗酸化成分等を加え、繁殖性改善を図るための飼料給与技術を確立する。	770			○
53		養豚試	一般		28	30	カーボンナノチューブ含有形成体を用いた効率的な豚房温度管理技術の確立	子豚は寒冷ストレスに弱く、季節を問わず暖房を行っており、ガスや電気の利用料金が増嵩している。このことから、子豚への暖房のコスト低減、適温管理を実現するため、カーボンナノチューブ含有形成体を用いた豚房温度管理技術を確立する。	756	○		
54		水産試	一般		28	30	大型クロマグロの魚場形成要因の解明	海水温の変化および漁況をモニタリングし、大型クロマグロの来遊時期や漁場形成との関係を明らかにする。	1,674			○
55		内水試	一般		28	32	地球温暖化に対応したコイ養殖期間短縮技術開発	鯉は溜め池で3年かけて2kgに育て上げ出荷するが、地球温暖化による異常気象の悪影響を受ける。閉鎖循環システムの導入や飼育技術の改良により、1～2年で2kgに育成することで悪影響のリスクを軽減し、効率の良い生産技術を開発する。	570			○
56		農総研セ	一般		28	30	県産有機野菜の安定生産のための土壌管理技術構築	山形県内の水田転換畑等で安定した野菜の有機栽培を行うために、有機質堆肥の連用や緑肥との組み合わせによる雑草対策や連作障害回避等の土壌管理技術を構築する。	404			○
57		水田農試	一般		28	30	水稲有機栽培における家畜ふん堆肥等の利用を核とした循環型肥培管理の確立	水稲有機栽培において、曝気処理した家畜尿由来の無機態窒素および家畜ふん堆肥由来のリン酸、カリウムの組み合わせによる資源循環型の肥培管理を確立する。	291			○
58		園試	一般		26	28	輸出向け果実に対応した防除体系の確立	台湾向け輸出果実について、従来の防除に加え性フェロモン剤を上乗せすることによりモモンクイガの寄生リスク低減を図るとともに、主要な農薬について作物残留量を把握し、台湾の残留農薬基準値に適合した防除体系を確立する。	1,318			○
59		園試	一般		26	28	山形県におけるカイガラムシ類の発生実態の解明と防除技術の確立	近年、果樹や花木でカイガラムシ類による被害が増加傾向にある。そこで本課題ではリンゴ、オウトウ、西洋ナシ、サクラなどに寄生するカイガラムシ類の種類や生態を把握するとともに、その効率的な防除対策について検討する。	1,087			○
60		農総研セ	一般		27	29	県産米の低投入・低排出型生産技術体系の確立と付加価値の見える化手法の開発	温室効果ガス(CO2換算)を指標とした環境こだわり高付加価値米を生産するための生産技術の体系化と付加価値の見える化手法を開発する。	1,212			○
61		農総研セ	一般		27	29	斑点米発生のリスクの解明による効率的な斑点米カメムシ類の防除技術の確立	斑点米カメムシ類には、複数回の防除が行われているが、一方では防除コストの削減も課題となっている。そこで、斑点米発生のリスクが高まる要因を明らかにし、必要最小限の防除となるように、リスクに対応した防除技術を構築する。	1,128			○
62		農総研セ	公募	農林水産省	27	31	水稲作におけるカリの適正施用指標の策定	カリ施用が水稲養分や登熟、土壌交換性カリの経年変化へ及ぼす影響を明らかにし、堆肥によるカリ供給や品種、土壌型等を考慮したカリの適正施用指標を策定する。	2,800			○
63	6	農総研セ	公募	農林水産省	27	31	可給態窒素の迅速診断に基づく窒素施肥の適正管理	土壌診断に基づく的確で効率的な施肥を推進するため、新たに提案された分析法を用いて、山形県内における可給態窒素の迅速診断法の確立と診断精度向上を図る。	2,634			○
64		農総研セ	公募	農林水産省	27	31	大豆多収阻害要因の把握指標の開発	大豆生産現場において、生育・収量等と耕種条件、土壌条件等を調査し、大豆多収阻害要因の把握指標を開発する。	2,522			○
65		園試	公募	農林水産省	27	31	低温水を用いたオウトウ白紋羽病の温水治療技術の開発	りんご等の白紋羽病治療で開発された温水処理技術は、省力的で安全性も高いが、従来の処理条件では熱耐性の低いオウトウ樹体に障害が発生する。オウトウに適合した処理技術を開発し、体系防除技術の普及を図る。	1,494			○
66		農総研セ	一般		28	30	イネばか苗病に対する化学農薬を用いない防除技術の開発	県内の大規模なイネ育苗施設において、これまでに複数のばか苗病発生要因を明らかにしたことから、各要因に対する防除技術(土壌還元消毒、育苗箱・出芽機消毒等)導入のため、現地実用化試験を行い、技術確立を図る。	1,879			○

平成28年度試験研究課題一覧

資料3

当初 番号	9補 番号	機関	課題 区分	公募採択機関・委 託元	実施 年度	概要		事業費 (千円)	先端的、戦 略的な研究 開発	産業の活力 と力強さを生 み出す研究 開発	安全・安心な 生活、環境 保全型社会 を生み出す 研究開発
						課題名	課題概要				
67		農総研セ	公募	農林水産省	28	28	温暖化が水田地力に及ぼす影響と有機物連用効果の解明	温暖化の進行に対する適切な地力維持管理手法を構築するため、有機物長期連用水田を活用した土壌養分の変動の調査解析を行い、温暖化による地力消耗の影響を把握する。	622		○
7		農総研セ	業務	農研機構 農業技術革新工学研究センター	28		消毒装置の高度利用化を目的とした農学的手法によるばか苗病の評価試験	ばか苗病を対象とした①処理後種子の適切な貯蔵条件の調査及び、②ラジカル等の殺菌源を利用した種子浸漬中(浸種・催芽)の追加防除法に関する防除効果等を調査し、消毒装置との体系防除の適応性を評価する。	500		○
8		園試	公募	農林水産省	28	31	オウトウにおける天敵を主体としたハダニ防除技術の確立	天敵を主体としたハダニ防除技術を確立することで、薬剤感受性個体群の発生を抑え、オウトウの安定生産に寄与する。	2,035		○
68		農総研セ	業務		12		農産物加工開発技術指導	農産加工グループなどからの指導要請に応じて、食品管理技術や加工技術を指導	1,052	○	
69		農総研セ	一般		27	29	さくらんぼの素材特性を活かした加工技術の開発	さくらんぼ加工品の食感や風味を改善する技術を開発し、乾燥品やジュースなどに応用することにより、さくらんぼの加工利用拡大に寄与する。	879	○	
70		農総研セ	一般		27	29	すいかの食感・香りを活かす新しい加工技術の開発	すいかは加工により食感や風味が変化する。そこで、果肉の利用技術やすいからしい風味を活かす瓜果制御技術を確立し、生のすいかのおいしさを感じられる新たな加工品を開発を目指す。	1,368	○	
71		農総研セ	業務		S29		水稲・畑作物奨励品種決定調査	水稲、大豆などの奨励品種、優良品種選定のため調査を実施	444	○	
72		園試	業務		13		園芸作物奨励品種決定調査	本県及び独立行政法人、公設試験研究機関、民間等で育成した園芸作物の新系統・品種について、県内試験場及び現地ほ場において特性を調査し、本県において適応性が高いと認められる系統・品種の産地普及を図る	971	○	
73		水田農試	一般		25	29	第Ⅴ期水稲主力品種の育成	品質と食味が特に優れる、①山間～中山間地向けの早生～中生品種、②平地地帯の中生晩～晩生早品種、を育成する。	7,908	○	
74		庄内産地研	一般		25	29	いちごオリジナル新品種の開発	「サマーティアラ」の改善点を克服した耐暑性や病害抵抗性等の特性を持つ四季成りいちご品種を育成する。そのために高温選抜や病害抵抗性検定等の手法改良や病害抵抗性品種・優良中間母本の交配に取り組む。	2,091		
75		園試	一般		26	28	りんどう育種素材の収集と親株のクローン増殖技術の確立	7月～8月上旬開花(極早生・早生)・上部咲き品種および新規性の高い品種の育成に向けて、りんどう育種素材を収集し、評価・選抜を行い親系統を強化する。また、親系統の培養技術を確立し、優れた形質を有する個体を親として増殖、維持する。	218	○	
76		水田農試	公募	農林水産省	26	30	業務用東北オリジナル水稲品種の共同選定	東北6県で連携し業務用水稲新品種の育成・選定を行なうにあたり、当場で系統適応性検定試験と高温耐性検定試験を行う。	797	○	
77		園試	一般		27	31	第7期西洋なしオリジナル優良品種の開発	西洋なしの消費拡大・長期販売を目的に、消費者の需要に対応した外観の良い良食味品種を育成する。外観特性の把握や育種年限短縮化試験により、品種開発の効率化を図る。	1,302	○	
78		水田農試	一般		27	31	第Ⅲ期地域特産型水稲品種の育成	多収性や低コストに対応した飼料用イネ(米・WCS)を育成する。また、「美山錦」よりも高温耐性が優る酒米品種、及び「でわのもち」よりも栽培特性が優る糯米品種を育成する。	1,372	○	
79		農総研セ	一般		28	32	第3期そば優良品種の開発	県産そばの収穫量と品質を向上させるために、「最上早生」、「でわかおり」よりも早い時期に収穫できる多収で耐倒伏性があり、粉色、香りに優れた良食味品種を開発する。	931	○	
80		園試	一般		28	32	第4-2期おうとう新品種の開発	現在のおうとう品種の問題点のみでなく、今後の生産動向を踏まえて、早生品種を中心とした将来に繋がるおうとう品種を開発する。	3,434	○	
81		園試	業務		18		特産園芸作物の原種苗供給	山形県の特産果樹、特産野菜について原母樹、原種苗を維持し、ウイルスフリー化、原種苗供給を行う	381	○	
82		水田農試	一般		24	28	イネゲノム情報を用いたオリジナルDNAマーカーの開発と新育種体系の確立	本県に適合する交配育種にDNAマーカー選抜を組合せた品種開発体系を確立する。また、今後の品種開発を加速させるため、食味、高温登熟性のDNAマーカーの開発を行う。	6,749	○	
83		園試	一般		24	28	新規ゲノム情報を活用した果樹DNAマーカー選抜育種法の開発	おうとう育種の目標形質(果肉色、早晩性など)に関するDNAマーカーを開発し、交雑実生の選抜にDNAマーカーを利用することで、品種開発の効率化を図る。	3,120	○	
84		水田農試	公募	農林水産省	25	29	SNPアレイを活用した「つや姫」の早生同質遺伝子系統の育成	出穂期が晩生である「つや姫」に、早生化遺伝子である森多早生型 <i>Hd17</i> を導入した同質遺伝子系統を作成する。	1,436	○	
85	9	園試	公募	農林水産省	24	29	ぶどう「シャインマスカット」周年安定供給に向けた越冬出荷技術の開発および輸出実証	「シャインマスカット」の周年供給に向け、収穫期遅延技術や水分補給による貯蔵期間延長技術を組み合わせることで越冬出荷技術(目標:2月中旬まで)を開発し、『春節』の時期に輸出実証を行う。	2,461		○
86		園試	一般		26	28	バラの秋冬季における局所加温と炭酸ガス施用技術の開発	生産者の事例調査を行なうとともに、培地・株元の局所加温とCO2施用が生産性に及ぼす影響を検討し、効率的なエネルギー利用による低コスト生産技術を開発する。	2,364	○	
87	10	庄内産地研	公募	農林水産省	26	29	育苗施設の高度利用によるパブリカの栽培技術実証研究	庄内地方で産地化が進むパブリカを水稲育苗ハウスで栽培する際に課題となる土壌病害対策に有効な栽培技術開発に取り組む。特に、草勢の維持や増収が可能な接ぎ技術と簡易隔離栽培技術の開発に取り組む。	2,418		
88		園試	一般		26	28	スイカ高品質・多収化技術の開発	スイカの主要栽培法「つる引き・トンネル移動」で、効率的な灌水・追肥により、異常気象の影響を受けにくく安定して高品質、多収となる栽培方法を確立する。特に、「トンネル移動栽培」では、目標とする草勢を確保する管理技術を確立する。	1,633	○	
89		園試	一般		27	29	米政策転換に対応した花きの露地新作型とハウス高度利用技術の開発	土地利用型の露地花きの新作型開発として、内陸平坦部における極早生りんどう栽培、水稲育苗ハウス等の高度利用を可能とする品目の安定生産技術として、さくの花束加工向け短期栽培及びストックの開花調節技術を確立する。	3,934	○	
90		園試	一般		28	30	日本海側の気象に対応したトマトの長期多収生産体系の開発	企業の経営体を育成・支援し、農業者所得の向上と産出額の増大を図るため、養液栽培によるトマトの高収益栽培体系を構築する。具体的には、本県の気象条件に合致した夏秋どり栽培を活かしつつ、初春から晩秋まで収穫する超長期どり栽培技術を確立する。	1,918	○	
91		園試	一般		28	30	やまがた型特産野菜の省力高収益周年栽培技術の確立	農業所得を向上させるためには高収益な周年生産が不可欠であるが、山形県の気象、栽培コスト等の問題により、高収益な周年生産体系は確立されていない。そこで、安定的に収益を得られる周年栽培技術の確立を行う。	1,295	○	
92	11	園試	公募	農林水産省	28	28	特産花きの日持ち保証販売に対応した品質保持体系の確立	日持ち性に改善が必要なダリアと促成枝物花木について、日持ち保証販売に対応するため、生産者段階で行う品質保持技術(品質保持剤、処理条件、輸送形態等)を検証し、問題点の抽出と改善を行い、生産、流通、小売り、消費者の一体的な日持ち保証販売の取組を推進する	1,886	○	
93		庄内産地研	公募	農林水産省	28	30	温室群の保温性能をベースアップする省エネ推進システムの開発	防風施設が温室群の保温性能をベースアップさせる効果を解明し、その省エネ効果を可視化する評価ツールを開発する。	3,071		
94		村山産地研	業務		28		園芸作物地域産地形成技術実証指導	「新農林水産業元気再生戦略」等に対応した新技術・新品目等について、技術実証や展示栽培を通じた普及拡大を目指し、地域にあった園芸作物の産地づくりを支援する。	207	○	
95		最上産地研	一般		28	30	オウトウ雪害回避技術の開発	オウトウについて、冬期の降雪による樹体の枝折れ等を防止するため、現地優良事例の解析のほか、降雪前のせん定による雪害回避技術、補強資材利用による未成園での雪害対策技術を開発する。	413	○	
12		園試	公募	農研機構生物系特定産業技術研究支援センター	28	30	国際競争力強化と輸出拡大のための超大玉オウトウ生産・加工技術開発	国内外で差別化ができる超大玉で高品質のオウトウ栽培技術の開発、輸出相手国の残留基準に適合した防除体系の確立、形状や食感、風味の良い加工技術の開発を行うとともに、実証試験を同時並行で行い、早期に普及を図る。	21,604	○	
13		園試	公募	農研機構生物系特定産業技術研究支援センター	28	30	りんご半わい性台木を活用した積雪地帯型早期成園化技術の開発	りんご産地の生産性を向上し、競争力のある「強いりんご産地」づくりを実現するため、雪害耐性と早期多収性に優れた仕立て方について実証研究を行う。	2,034	○	

平成28年度試験研究課題一覧

資料3

当初 番号	9補 番号	機関	課題 区分	公募採択機関・委 託元	実施 年度	概要		事業費 (千円)	先端的、戦 略的な研究 開発	産業の活力 と力強さを生 み出す研究 開発	安全・安心な 生活、環境 保全型社会 を生み出す 研究開発	
						課題名	課題概要					
124		園試	一般		26	28	食用ぎく「山園K4号」の栽培技術の確立	「山園K4号」は果育成品種「越天楽」に重イオンビームを照射し、突然変異を誘発して得られた黄色系の食用ぎくである。収穫期は10月から11月である。また、頭花の大きさが収穫期間を通して変化が少なく、良食味(苦味が少なく歯ざわりが良い)であるという特性を持つ。本研究では「山園K4号」の栽培技術の確立を図る。	447		○	
125		最上産地 研	一般		28	30	トマト土耕栽培における安定生産技術の確立	夏秋トマトの土耕栽培において、低コスト苗利用技術や秋期収量向上技術を確立し、農業所得の向上や産出額の拡大を図る。	842		○	
126		最上産地 研	一般		26	28	タラノメ新品種候補の栽培技術の確立	近年、たらの芽主力系統は生育弱勢化等に伴い生産量が減少している。この対策として、期待が高まっている新品種の特性を活かした栽培技術の確立を行う。	597		○	
127		水田農試	一般		27	29	水稻新品種「山形112号」の栽培法の確立	「山形112号」の特性を発揮できる栽培法と食味向上技術を確立し、低コスト省力栽培法を検討、実証する。	3,066		○	
128		畜試	一般		26	28	各種データの変量解析による山形牛の生産性向上技術の開発	山形牛の品質に対する評価は総じて高いものの、生産者レベルでみると飼養管理技術に差がある。このため、肥育牛の血液の網羅的分析と関連データの変量解析により、飼養管理上の改善方策を明らかにして適正な牛群管理を行う手法を確立し、生産性の向上と経営の安定化	520		○	
129		畜試	公募	農林水産省	27	29	肥育牛の飼料効率向上を実現する膨潤発酵飼料の低コスト化と給与効果の実証	肥育牛のルーメンアシドーシス関連疾病の低減と、飼料効率向上による飼料費の低減が期待できる低コスト膨潤発酵飼料を開発し、現地実証試験により給与効果を検証する。	9,969		○	
130		畜試	一般		28	30	胚移植技術を活用した高能力牛増産技術の確立	和牛については、高齢繁殖雌牛の活用とアミノ酸投与により胚生産コストの低減化について検討する。また乳牛については、性選別精液の活用による雌胚の効率生産と牛群検定情報の活用によるレシピエントの選定手法について検討する。	781		○	
131		畜試	公募	農林水産省	28	30	和牛肉食味のNMRメタボロミクスに基づく迅速評価技術の実証	これまでに検討してきたNMR分析と変量解析を組み合わせた手法(NMRメタボロミクス)に基づく和牛肉食味の迅速評価技術を確立するとともに流通現場での実証を行う。	19,900	○		
132		畜試	公募	農林水産省	27	29	和牛肉の優れた食味成分に関する網羅的分析と遺伝育種情報の収集	和牛肉の香気成分と呈味成分の網羅的解析と官能評価により、育種改良の指標となりうる化合物を選定し、食味に関する育種改良手法を確立する。	24,400	○		
133		畜試	一般		26	28	特徴ある生乳生産技術の確立	地域の特徴をアピールできるイネWCS給与乳生産に対応した特徴ある高付加価値型生乳生産技術の確立を図ると共に、商品化を見据えマーケティングの方向づけを行なう。	553		○	
134		畜試	一般		27	29	県産飼料資源活用によるやまがた地鶏の飼料給与技術の開発	県産飼料資源を有効活用し、やまがた地鶏の飼料費低減を図るとともに、山形の特産作物等の添加による地鶏肉の特徴づけ、差別化を図る。	487		○	
135		畜試	一般		28	30	ゲノミック評価情報を活用した育成および初産時周産期における飼養管理技術の確立	ゲノミック評価情報を活用し、牛の持つ個々の遺伝能力に応じた育成および初産時周産期における最適な飼養管理技術を確立することで乳牛の生産性向上と牛群検定情報のさらなる有効活用につなげる。	758		○	
136	21	畜試	公募	農林水産省	27	31	乳用牛における泌乳中エネルギーバランスの総合的評価手法の開発	飼料給与の内容、産次、乳期など飼養条件の異なる乳用牛を用いた飼養試験を行い、各種データを収集・解析して、泌乳中のエネルギーバランス状態を早期かつ簡易に把握するための評価手法を開発する。	1,430		○	
137		畜試	一般		28	30	サイレーン調製用粳米の長期保管技術の確立	飼料用米のサイレーン調製・利用の拡大に向けて、農閑期でも調製作業が実施できるように生粳の長期保管技術を確立する。	440		○	
138		畜試	一般		28	30	ケイ酸強化くん炭モミガラ堆肥生産技術の開発	カントリーエレベーターから排出されるくん炭モミガラ(低温粒殻燃焼灰)を副資材として乳牛糞尿に混合し堆肥化することによって、溶解されやすいケイ酸を付加した堆肥生産技術を確立する。	276			○
139		畜試	公募	農林水産省	27	31	高品質多年生牧草の育成と利用年限延長のための技術確立	配合飼料価格の高騰による畜産農家経営の圧迫と温暖化による草地荒廃の加速に対応するため、高品質牧草を開発し、その持続性を高める栽培技術を確立する。	1,580		○	
140		畜試	業務		26	28	飼料作物優良品種選定調査	牧草、飼料作物の新品種、系統について、本県の気象条件下における栽培適応性等を調査し、推奨すべき優良な品種を選定	822		○	
141		養豚試	一般		26	28	豚人工授精用精液の効率的利用方法の確立	豚人工授精技術の低コスト化や省力化を図るため、精液注入器と注入精子数の検討を行うことで、より効率的な精液利用法を確立する。	380		○	
142		養豚試	一般		28	29	新規抗体検出法を用いたローソニア感染症の効果的な被害低減対策の検討	開発した新規のLi抗体検出ELISA等を用いて、Li感染症の影響があると予想される農場において効果的な対策(時期、方法)を検討する。	591		○	
143		養豚試	一般		28	30	水田資源活用飼料による養豚経営の安定化	飼料費の縮減および穀物相場等に影響されづらい安定した経営の実現を図るため、配合飼料を削減し飼料用米と転作規格外大豆を組み合わせた代替給与する技術を検討する。	452		○	
	22	畜試	公募	農林水産省	28	31	耕畜連携の強化による飼料コスト低減化技術の現地実証	栄養価を改善した玄米SGSや肥育牛向け圧砕稲わらの調製技術確立・長期給与による影響評価及び子実多収・耐病性品種による子実用トウモロコシの栽培技術実証を行う。	3,123		○	
	23	畜試	公募	農林水産省	28	32	和牛肉の香気成分と呈味成分等の網羅的解析に基づく新たな食味評価技術の開発	和牛肉の香気成分と呈味成分の網羅的解析と官能評価により、食味に寄与する化合物を選定し、これまでに作成した食味推定市の推定精度向上を図るとともに、新たな食味指標を作成する。	29,123	○		
	24	養豚試	公募	農林水産省	28	30	飼料用米、酒粕を活用した特色ある豚肉生産技術の確立	地域資源飼料である飼料用米、酒粕を豚飼料として活用し、特色ある豚肉生産技術を確立する。	2,193		○	
144		水産試	一般		26	30	底魚類漁獲動向予測技術開発	キアンコウ、ヤナギムシガレイ、マガレイについては漁獲動向の確認を行い、予測精度の向上を図る。また、着底稚魚調査の実施範囲を拡大することにより、新たな魚種で漁獲動向予測技術の開発を行う。	727		○	
145		水産試	業務		26	30	底びき網漁業活性化対策調査	底びき網漁場におけるマダラ・ハタハタ等主要魚種の資源状況の定期的モニタリング調査と、底びき網未利用海域における漁場探索及び漁期前漁獲試験を行ない漁業生産活動を支援する	1,379		○	
146		水産試	業務		27	36	サケ・サクラマス資源調査	サケの回帰予測情報を関係団体・漁業者に提供する。サクラマスの増殖のため、回遊経路調査等を行なう。	211		○	
147		水産試	一般		26	28	食用海藻増殖技術開発	モズク類など食用海藻の生態を把握し、庄内浜に適した増殖技術を開発する。	345	○		
148		水産試	業務		27	31	増養殖技術指導	漁獲物の蓄養、鮮度の測定など漁業支援技術に関する指導や試験を行う。	494		○	
149		水産試	一般		26	28	簡易閉鎖循環式種苗生産技術開発	閉鎖式飼育方法による魚介類の低コスト種苗生産・飼育技術を開発する。	226		○	
150		水産試	一般		24	28	栽培新魚種の種苗生産と放流に関する研究	栽培効果が期待されるトラフグの最適な放流技術の開発、イシガレイの種苗生産技術開発等により、新たな栽培魚種の有効性・経済性を明らかにする。	910		○	
151		水産試	一般		28	30	魚介類の簡易的脂質測定手法の開発	サワラのおいしさを表す主要な指標である含有脂肪率について、生産現場で実施可能な非破壊かつ迅速な数値化の手法を確立することで商品の出荷基準を設定し、庄内およびサワラのブランド力強化を図る。	66		○	
152		内水試	一般		25	29	山形独自のブランドマス開発試験	バイオテクノロジーを活用した新魚種や、未養殖魚種であるサケについて、成長、耐病性、食味等の試験及び評価を行い、独自の大型ブランドマスを開発し、本県マス類養殖業の発展を図る。	410		○	
153		内水試	業務		25	29	増養殖技術指導	県内の増殖養殖業者に対して、種苗生産、養殖技術などについて指導	2,729		○	
154		内水試	一般		24	28	最上川支流におけるアユ資源量調査技術の開発	最上川におけるアユ資源量を把握するため、アユ漁場として代表的な支流において、遡上アユの目視計数や投網CPUEから遡上状況を把握する技術を開発する。	132		○	
155		内水試	一般		26	30	河川環境を総合的に利用したサクラマスの増殖手法の開発	これまでに開発した増殖手法を1河川で実践し、河川を総合的に利用した増殖手法の効果を実証して資源の増大を図り、豊かな海づくり大会に向けサクラマスを県の魚として、また海と川と山を繋ぐ魚としてPRする。	1,210		○	
156		内水試	業務		27	31	内水面重要魚種(アユ、サクラマス)の資源動向及び河川環境モニタリング	サクラマスとアユについて、長期にわたり資源及び生息環境に関するモニタリングを実施し、増殖方法に関する効果の検証や見直し、新たな方法についての提言を行う	232		○	
157		森林研セ	一般		26	30	山形県スギ林分収穫予測の精度向上に関する技術開発	県内のスギ林の現状に即した『スギ林分収穫予想表』を作成し、将来的にどのような材が、どの程度収穫可能かを予測するシステムを開発する。	245		○	

平成28年度試験研究課題一覧

資料3

		概要					事業費 (千円)	先端的、戦 略的な研究 開発	産業の活力 と力強さを生 み出す研究 開発	安全・安心な 生活、環境 保全型社会 を生み出す 研究開発	
当初 番号	9補 番号	機関	課題 区分	公募採択機関・委 託元	実施 年度	課題名					課題概要
158		森林研セ	一般		28	32	伐採地の立地環境に応じた目標林型設定技術の開発	森林資源の需要拡大に伴い、継続的で確実な資源の確保が求められている。目的樹種の成育特性と立地環境(植生、地形、土壌など)を指標として目標林型を明確に設定する技術を開発し、低コストな施業方法を提案する。	283		○
159		森林研セ	一般		27	31	海岸林の低コスト育成管理技術の開発	庄内海岸のクロマツ林は更新の時期を迎えつつあるが、海岸林の造成維持には多大な費用がかかる。従来の基準の見直しと新しい技術を取り入れることによって低コスト管理技術を開発し、安定した海岸環境の維持を図る。	200		○
160		森林研セ	一般		27	29	菌根菌(ショウロ)感染キャビティコンテナクロマツ苗生産技術の開発	コンテナ苗化したクロマツにショウロを感染させる方法を検討する。併せて、目的外菌根菌の感染防除方法を検証する。	208		○
161		森林研セ	一般		26	28	漆安定生産のための育成技術の開発	国産漆の供給拡大が求められる中で、国内(県内)では、健全な成林が見込まれないウルシ林分が増大している。これまでのウルシ栽培技術を見直し、現状にあった植栽技術を開発し、漆の安定生産を図る。	182		○
162		森林研セ	一般		27	29	県産スギ丸太材の乾燥スケジュールの開発	木造公共施設等に使用する剥皮した無垢の県産スギ丸太材について、割れや色艶の劣化など品質低下の起こりにくい低コストな乾燥手法を開発する。	199		○
163		森林研セ	公募	農林水産省	27	29	薬剤使用の制約に対応する松くい虫対策技術の刷新	薬剤によらない媒介昆虫駆除技術の高度化に向け、生物農薬資材の利用促進等に取り組む。また、被害拡大予防策として、被害拡大の焦点である東北地方での抵抗性マツの選抜と増殖技術の高度化等に取り組む。	1,460		○
164	25	森林研セ	公募	農林水産省	28	30	国産漆の生産・利用技術の開発	漆産木量の早期判定技術を確立し、漆資源量を的確に把握する手法を開発するとともに、未利用漆の利用技術を開発し、国産(県産)漆の安定した供給体制をめざす。	2,000		○
165		森林研セ	公募	生物系特定産 業技術研究支 援センター	28	30	東北地方の多雪環境に適した低コスト再造林技術の実証研究(ワラビカバークロープ効果を活用した低コスト化)	低コスト再造林システムの一貫として、ワラビをカバークロープ(※)として利用するモデル地での実証研究から、下刈軽減とワラビ収益による低コスト化の得失を解明し、実用化に向けたシステムの構築を図る。	1,000		○
166		森林研セ	公募		28	29	里山におけるナラ枯れ被害地を多角的アプローチで健全化を進める実証研究	ナラ枯れ被害木の木質バイオマス・被害林内の低木類の畜産利用や未利用成分の抽出を行い里山再生の技術を提示する。	1,300		○
167		森林研セ	業務		26	28	ナラ枯れ予防剤に関する試験	ナラ枯れ被害林での森林群集動態と生物相互関係を調査して被害林の再生に必要な条件を提示	240		○
168		森林研セ	業務		28	29	ナラ枯れ駆除用くん蒸剤試験	駆除用くん蒸剤(NCS)による立木・伐倒駆除法において、有効成分を高濃度化し、従来の約2/3の注入量での駆除効果を現地実証により試験し、薬剤登録を目指す。	240		○
169		森林研セ	業務		26	30	急激な被害をもたらす森林病虫獣害の調査	突発的な森林病害虫に関する初期被害状況の把握と可能な防除法の検討	300		○
170		森林研セ	業務		24	28	タケノコ(孟宗竹)栽培林および放棄竹林の管理方法の調査	竹林の現地踏査や栽培者への聞き取り等により、本県の気候風土に適したタケノコの栽培・管理方法と放棄竹林の管理・復元方法を調査	600		○
171		森林研セ	業務		27	29	森林資源有効活用作業システム調査	高性能林業機械を導入し、資源の有効活用と生産コストの低減に努めている事業者の作業システムを調査し、課題の抽出と改善策を検討す	400		○
172		村山産地 研	一般		27	29	異常気象に左右されないブランドえだまめ生産技術確立	主要野菜品目えだまめの単収の高位安定化による高品質ロット確保でブランド力を強化するために、出荷率向上技術の実証と同技術の迅速な普及のための省力安定技術を確立する。	339		○
173		最上産地 研	一般		28	32	市場ニーズの高い山菜オリジナル新品種の開発	市場ニーズに対応した、多収性のたらの芽・ふきのとうオリジナル新品種の実証を行う。	1,063		○
174		置賜産地 研	一般		26	28	大型トンネルを利用したアスパラガス半促成栽培技術の確立	置賜地域のアスパラガス産地の拡大、強化に向けて、より低コストで設置可能な大型トンネルを利用した4月どり栽培技術を開発し、露地二期どり栽培と組み合わせた長期安定出荷体制の確立を図る。	743		○
175		庄内産地 研	一般		26	28	えだまめ葉汚損症状を減少させる栽培体系の確立	莢の外観を損ね、減収の原因となる症状等の発生が少ない栽培体系を確立し、収量増加および庄内産えだまめブランド価値の向上を図る。	369		
176		庄内産地 研	一般		28	32	甘柿の安定生産技術の開発	甘柿の安定生産技術(寒冷地・強風地域に対応した高接ぎ更新、仕立て、及び着果程度など)を確立する。	214		
177		園試	公募	園芸振興松島 財団	28	28	オウトウ芽枯病の原因ウィルスの解明	オウトウ芽枯病はその原因となるウィルスの複合感染によるものと考えられている。本研究では、オウトウ芽枯病の原因ウィルスの組合せの特定を行う。	535		
その他		農総研セ	若手		28	28	メタボローム解析による県産わらびの品質評価法の検討	主要山菜であるワラビの内容成分についてメタボローム解析を行い、食味と内容成分の関係を明らかにする。さらに、これら解析結果を活用し、ワラビの品質評価法の確立を目指す。	200		○
その他		水田農試	若手		28	28	早期移植栽培に適した良食味水稻品種、技術の解明	早期移植栽培に適した良食味水稻品種、技術の解明	200		○
その他		置賜産地 研	若手		28	28	葉用作物ウコンの収量と品質の向上を目指した栽培技術に関する研究		200		
その他		内水試	若手		28	28	森・川・海における生物生産の関連性究明研究ー生物生産における落葉の役割ー	森林で生産され、川面に落ち、その一部が海にまで流される落ち葉が移動の先々の環境で生態系の一部としてどのように生物生産にかかわっているのかを明らかにする。内水面水産試験場、水産試験場及び森林研究研修センターの共同研究。	200		○
その他		内水試	若手		28	28	山形県内におけるサクラマス(ヤマメ)の遺伝的特性の解明	近年の水産資源評価にはバイオテクノロジーを利用した遺伝情報の取得が不可欠である。こうした基礎的情報を得るとともに、県魚サクラマス資源減少の一因と疑われている非在来型放流種苗との交雑を自然界で検証する。	200		○
その他		森林研セ	若手		28	28	ブナ科堅果の長期貯蔵方法および育苗技術の開発	豊凶性のあるブナ科種子の貯蔵方法と育苗技術の開発を行う。	200		○
							477,909				

事業費は、9月補正後の金額を記載。

一般・・・ 県独自の事業として取組んでいる試験研究課題

公募・・・ 公募により競争的外部資金を調達して取組んでいる試験研究課題

業務・・・ 県が経常的に取組む試験研究課題以外の課題(設備整備、調査研究・研修、奨励品種決定調査、技術相談・指導等)や外部の依頼により実施する課題

若手・・・ 公設試験研究機関の若手研究者(40歳未満)が発案した、地域課題に対応した研究課題(若手チャレンジ研究事業費)